

改正章節		主な改定のポイント
調査編		
	第1章 総論	<ul style="list-style-type: none"> ・前回改定時点からの調査編他章の改定を踏まえ、調査編各章の関係性の再整理を実施 ・河川砂防技術基準における調査結果等の活用の流れをDIKWモデル※に当てはめて整理 ※サービス・業務の遂行に必要となるData、Information、Knowledge、Wisdomの関係性を示した思考モデル
	第11章 河川環境調査	<ul style="list-style-type: none"> ・河川環境調査結果から「河川環境管理シート」を作成することによる河川環境の捉え方について追記 ・生態系ネットワーク形成について追記 ・環境DNA調査等、河川環境調査に関する技術的事項を追記
	第23章 調査結果の保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・データ連携やデータ品質に関する政府全体の動向や、三次元データや地理空間情報の活用の発展を踏まえ、河川砂防技術基準全編に共通する調査結果等の保存の基本的な考え方を記載
計画編 施設配置等計画編		
	第5章 情報施設配置計画	<ul style="list-style-type: none"> ・情報通信技術の著しい発展や、流域全体での情報の共有・活用していくことの重要性の増大を踏まえ、調査結果等を河川等の管理者や自治体・住民らが活用出来るようにする情報システムのあり方を記載 ・情報システムの整備に考慮すべき事項について整理。(データ連携・利用規約・維持管理・セキュリティ)
維持管理編 砂防編		
	第1章～第13章	<ul style="list-style-type: none"> ・予防保全型維持管理への本格転換のため、長寿命化計画の策定期間を10年から30-50年程度の中期年次計画と具体の箇所を示した10年以内の短期年次計画を策定することを追記。 ・老朽化対策におけるコスト縮減や効率化のために、新技術等の活用で短期的な数値目標及びコスト縮減効果の記載を追記 ・UAVやBIM/CIMモデルの活用について追記